

人工衛星搭載ハイパースペクトルセンサがとらえた

葛西臨海公園周辺（2）

データ収集：米国航空宇宙局（NASA）

データ処理：東京理科大学・国土情報工学研究会

前掲の観測波長帯域以外で観測された Hyperion データを並べてみました。上段の画像は、バンド 50 (854nm)、バンド 30 (651nm)、バンド 10 (447nm) のデータをそれぞれ「赤、緑、青」のプレーンに割当ててカラー合成したものです。植生が赤色に発色表示されることからフォールスカラー画像と呼びます。枠で囲った葛西臨海公園や宮内庁新浜鵜場等の箇所の植生が際だっていることが判ります。下段の画像は、バンド 22 (569nm)、バンド 15 (498nm)、バンド 8 (427nm) のデータをそれぞれ「赤、緑、青」のプレーンに割当ててカラー合成したものです。これは、紫外線 (1~400nm) に近い観測波長帯に対応するバンドを用いた合成画像であり、いわゆる紫外カラー画像に近い疑似合成画像と言えます。蜜蜂、蠅、蜘蛛等の昆虫類の視覚波長域は、紫外線に相当する波長帯域に属しており、この疑似合成画像は、まさにこれらの昆虫が見ている色の世界に近いものと言えます。Hyperion データからは様々なカラー合成画像を作成でき、地表面の分析を今までにない視点から展開できることが期待されています。

